

QCMATE MD

概 略 説 明 書

測定機器校正管理システム

 株式会社クオリメイト

「QCメイトMD」はISO9001の要求事項に対応しています。

初期のISO9001の取得では、大手企業や輸出関連企業が、欧米市場での取引の円滑化や海外から認証取得への要請に応えるために導入してきました。

その後ISO9001は、顧客満足度（CS）の工場に有効なことや、世界標準に合致した品質管理システムが社内で構築できるメリットも理解されてきたため、中小企業でも、品質の安定と製造コストの低減へ効果的であると理解され、急激に認証の取得が増えてきました。

このISO9001の要求事項の1つに「7.6 監視機器及び測定機器の管理」がありますが、測定器やゲージの管理は、ISOの要求事項の中でも最も重要な要求事項であり、企業にとっても品質を維持する上での最重要課題の1つです。

従ってこの要求事項では、製品が規定要求事項に適合していることを実証するために、検査、測定、試験の装置を管理し、校正し、維持することを求めています。

「QCメイトMD」を利用して計測器管理を行うことは、ISO9001の要求する「測定器の校正管理業務」を正確かつ一番経済的に実現する方法と考えます。

ISO9001は、品質管理体制の確立を証明する世界標準です。

■ ISO9001は品質管理体制の確立を証明するグローバル・スタンダード

従来までの取引先との品質に関する取り決めは、自主管理を基本とする考えが大部分を占めていました。これは、今まで長年培ってきた製造元とお客様の商品への信頼が裏付けとなっているわけですが、これからの大競争時代を生き残っていくためには、この方法はもはや有効ではありません。品質を商品で保証する現物保証の考えは、新規のお客様や国際的な取引にはもはや通用しません。さらに中小企業の主なお客様である国内のほとんどの大企業がISO9001の取得を行った結果、取引先の全てのメーカーは、お客様の品質保証体制と切り離して商品を納入することはできなくなりました。

また、製造物責任（PL）の問題が起きた場合、裁判所から品質保証体制に対する「客観的な証拠」が製造元側から明確に提示できない企業は、不利な判定に甘んじなければなりません。

■ ISO9001取得のメリットは？

最近の国際化と大競争時代を生き抜くため、最近では中小企業でもISO9001の認証取得が珍しくありません。この認証を取得するには、さまざまなメリットがあります。

- ① 新規取引の際に自社の商品の管理状態を客観的に証明でき、営業活動が有利となる。
- ② 製造物責任（PL）問題発生時に、生産体制や品質保証システムの正当さを客観的に立証できる。
- ③ お客様に対し品質保証体制がISO規格で実施しているとの証明や、商品の品質に対する信頼感（CS）を確保できる。
- ④ 全従業員で取り組むため、品質管理に対する社員の意識を高揚させ、安定した品質の商品を生産できる。

ISO9001が要求する、計測機器管理とは何か？

ISO9001:2000では、メーカーが商品の品質や納期を購入者に対して保証するため、さまざまな要求事項を明確に示しています。

企業がこのISO9001:2000の認証の取得や維持をしようとする場合、7.6項「監視機器及び測定機器の管理」は、要求事項であるため、正しく実行することが求められています。

「7.6 監視機器及び測定機器の管理」は管理手順として主に次のように規定しています。

- a) 定められた間隔又は使用前に、国際又は国家計量標準にトレース可能な計量標準に照らして校正又は検証する。そのような標準が存在しない場合には、校正又は検証に用いた基準を記録する。
- b) 機器の調整をする、または必要に応じて再調整する。
- c) 校正の状態が明確にできる識別をする。
- d) 校正の結果の記録を維持すること。
- e) 取り扱い、保守、保管において、損傷及び劣化しないように保護する。

以下略

この規定が要求する基本的な内容をまとめると、以下になります。

- ① 必要な正確さと精密さを持つ測定器を選定すること。
- ② 使用する測定機器が、使用頻度に応じ規定した間隔で校正、調整されていること。
- ③ 校正の基準とするゲージが、国家基準との間でトレーサビリティがとれていること。
- ④ 合格していることの根拠となる記録を作成し、維持していること。

この4項目のうち正しい測定器を選定するという第1項を除けば、要求事項は、

測定器の精度の維持管理と精度トレーサビリティの確立を行う

と言い換えることができます。

ここで対象となる測定機器は、ISO9001を取得しようとする企業が保有するもの以外に、社外から借用しているものも含まれるので、注意が必要です。

「QCメイトMD」は、この「測定器の維持管理とトレーサビリティの確立」に答えるため、さまざまな機能をもっています。

「QCメイトMD」の手順に従って測定機器類の校正管理を行えば、ISO9001が要求する「監視機器及び測定機器の管理」方法を正確に実現できます。

■ 日本語・英語バイリンガル版なので海外工場でも正確な計測器管理が実現できます

「QCメイトMD」は、Windows10の英語版でも動作するので、日本企業の海外工場でも日本国内と同じ計測器管理を実現できます。

最近、海外・日本国内で製造される製品は、同等品質が当たり前になってきています。企業の発展と安定のためにも、海外工場と国内工場の連携は大切です。「QCメイトMD」は、開発時から日本企業の海外工場の計測器管理も考慮していますので、安心して国内と同じ管理手法を海外にも展開できます。

測定器の精度の維持管理とトレーサビリティを確立する要件

■ 測定器が使用頻度に応じ、規定した間隔で、校正、調整されていること

① 計測器管理規定に従い、計測器毎に校正基準を設定できます

管理対象の計測器の校正作業手順は、通常は社内の「計測機器管理規定」や「計測機器定期検査要領書」などで規定されていますが、「QCメイトMD」ではこの社内基準書に基づいて計測器毎に検査項目や作業手順の細目が登録できるので、どの担当者が行っても決められた校正手順で正確な校正作業ができます。

◆ 校正履歴情報の入力画面

トレーサビリティを確立する校正基準ゲージを登録する

有効期限を自動設定する

過去の校正履歴を表示する

登録した器差公差から合否を自動判定する

器差の変化をグラフ表示する

校正箇所	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
摘要	00±1	20±1	40±1	60±1	80±1	100±2	120±3	平行度	平面度	深さ	内径	外径
目盛	0.00	20.00	40.00	60.00	80.00	100.00	120.00		3	20.00	15.00	ガクキズ
上側許容器差	0.00	+0.01	+0.01	+0.01	+0.01	+0.02	+0.03			+0.02	+0.02	ユリス
下側許容器差	0.00	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.02	-0.03			-0.02	-0.02	ナキコト
表示モード	相対値	相対値	相対値	相対値	相対値	相対値	相対値	文字	絶対値	絶対値	絶対値	文字
器差モード	両側公差	両側公差	両側公差	両側公差	両側公差	両側公差	両側公差	両側公差	以下	両側公差	両側公差	両側公差

② 使用頻度、重要度に応じた校正周期を計測器毎に設定できます

通常の場合、校正作業の基準となる計測器管理規定では、同じ型番や形状の測定器でも、使用頻度、使用現場、品質の重要度によって校正周期や校正方法は異なった規程をしているのが通常です。「QCメイトMD」は、判定の基準となる校正規格を個々の計測器毎に登録できるので、種類が多く面倒なゲージ管理にも最適です。

校正対象の計測器は、設定した有効期限を基準に回収しますが、校正作業時に登録時に初期設定した校正周期をもとに、次回の有効期限を自動的に表示します。

③ 回収指示書の発行機能を使い、校正対象の測定器を100%回収できます

計測器の維持管理する時の一番の問題点は、校正が必要な測定器を製造現場より確実に回収することです。「QCメイトMD」は有効期限の近づいた計測器を自動検索し、回収指示書として発行できるので、校正が必要な測定機器をもれなく確実に回収できます。有効期限が切れた測定器を製造現場で使い続ける失敗を根絶できます。

さらに回収予定機器の検索時に、校正が必要な全ての測定器の総校正作業時間が自動計算できるので、必要な工数を前もって計画できます。ISOの認定審査やお客様の工場監査を受ける場合、有効期限が近づいた測定器を確実に回収できる仕組みの説明が求められます。「QCメイトMD」を使うことで、お客様からの信頼される計測器管理が実現できます。

◆ 回収指示書発行の画面

校正予測時間を自動計算できる

No.	計測器 No.	基準	機器タイプ	機器名称	製造番号	メーカー名	型式	校正基準 No.	校正箇所	関連機器 No.
1	C-08001		デジタルキ...	デジタルキ...	1123112	株式会社ミ...	CD-S15C	C-08001	13	
2	C-08002		デジタルキ...	デジタルキ...	1123112	株式会社ミ...	CD-S15C	C-08002	12	
3	C-08003		デジタルキ...	デジタルキ...	1123112	株式会社ミ...	CD-S15C	C-08003	10	aaaaa
4	C-08030		デジタルキ...	デジタルキ...	112311245	株式会社ミ...	CD-S15C	C-08030 #	13	
5	C-08031		デジタルキ...	デジタルキ...	112311245	株式会社ミ...	CD-S15C	C-08031	12	
6	C-08032		デジタルキ...	デジタルキ...	112311245	株式会社ミ...	CD-S15C	C-08032	13	

④ カラー識別でも有効期限を管理できるので、現在の管理方法を継続できます

計測器の有効期限を管理するために、カラー識別できるシールを貼っている企業が多く見受けられますが、「QCメイトMD」はこの運用方法を取り入れることができます。管理番号だけでは、使用している測定器が一見して有効期限内かどうかは、現場作業には解りません。カラー識別すれば誰でも簡単に機器が有効期限内かどうかを判断できます。

⑤ 必要な総校正作業時間をシステムが自動計算するので、作業計画が正確です。

校正を必要とする測定器の総校正作業時間をシステムが自動計算するので、品質管理部門で正確な校正作業の日程計画を立てることができます。

「QCメイトMD」では個々の測定器の校正予測時間を登録できます。従って校正を必要とする機器を台帳から検索する時、システムが自動的に校正に必要な作業時間を計算するので、正確な作業計画ができ、スケジュール管理の手助けになります。

■ 校正の基準とするゲージが、国家基準との間でトレーサビリティがとれていること

① 校正作業で使用する基準器を登録できるので、トレーサビリティが確立できます

どの基準器でどの校正個所の検査作業を行ったのかを、校正履歴データとして記録できます。従って基準ゲージの校正証明書の記載事項をもとに、ISO9001の要求事項である国際標準または国家標準との間に根拠のある関係をもつ装置や機器を用いて校正した、ということを明確に立証できます。

◆ 校正履歴情報画面

校正履歴情報画面のスクリーンショット。画面には校正担当者、校正場所、温度、湿度などの入力欄があり、下部には検査項目ごとの校正履歴テーブルとグラフが表示されています。

校正箇所	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
描 要	00±1	20±1	40±1	60±1	80±1	100±2	120±3	平行度	平面度	深さ	内径	外径
目 盛	0.00	20.00	40.00	60.00	80.00	100.00	120.00	3	3	20.00	16.00	外径
上側許容公差	0.00	+0.01	+0.01	+0.01	+0.01	+0.02	+0.03			+0.02	+0.02	公差
下側許容公差	0.00	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.02	-0.03			-0.02	-0.02	公差
表示モード	相対値	相対値	相対値	相対値	相対値	相対値	相対値	文字	総和値	総和値	総和値	文字
調整モード	両側公差	両側公差	両側公差	両側公差	両側公差	両側公差	両側公差	両側公差	以下	両側公差	両側公差	両側公差

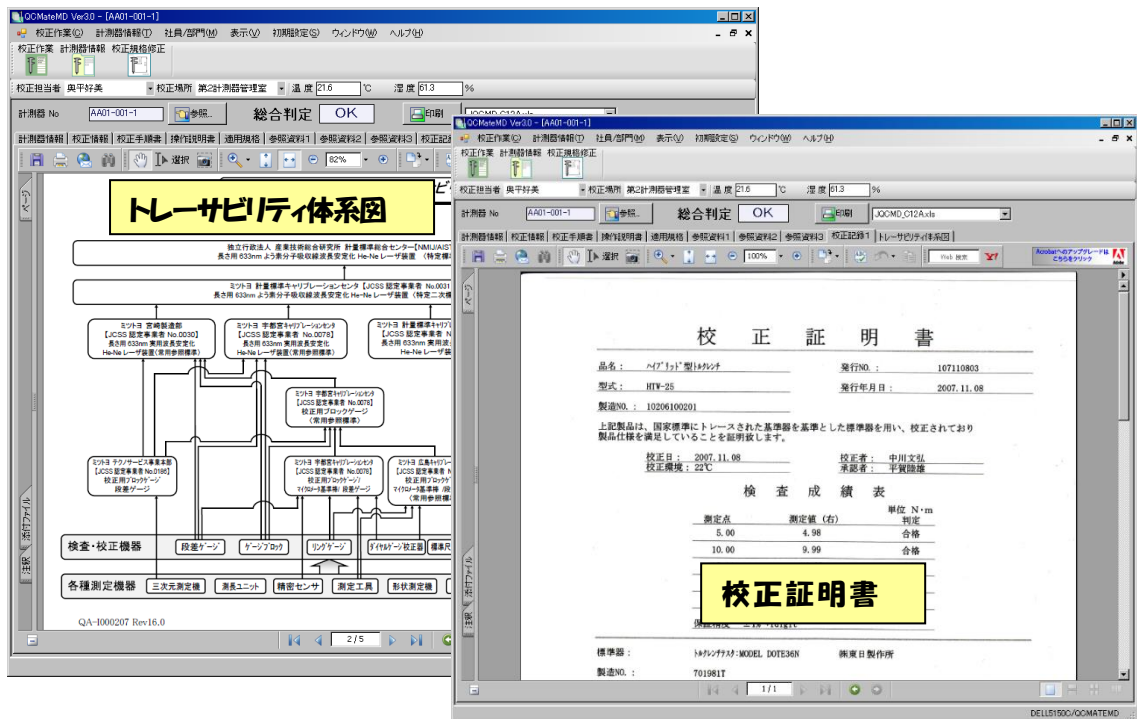
② 基準器も登録できるので、有効期限や上位の一次基準器へのトレースも実現できます

校正作業時に使用するブロックゲージなどの基準器を登録できます。さらに校正を外部委託した時に発行される校正証明書とトレーサビリティ体系図も統合して管理できます。

校正履歴情報画面のスクリーンショット。画面には校正担当者、校正場所、温度、湿度などの入力欄があり、下部には検査項目ごとの校正履歴テーブルとグラフが表示されています。

校正日	校正証明書
2009/01/09 14:38:56	12946-209
2009/12/26 10:58:20	12956-255
2009/12/12 12:09:40	12956-256

◆ 統合管理された校正証明書とトレーサビリティ体系図の表示画面

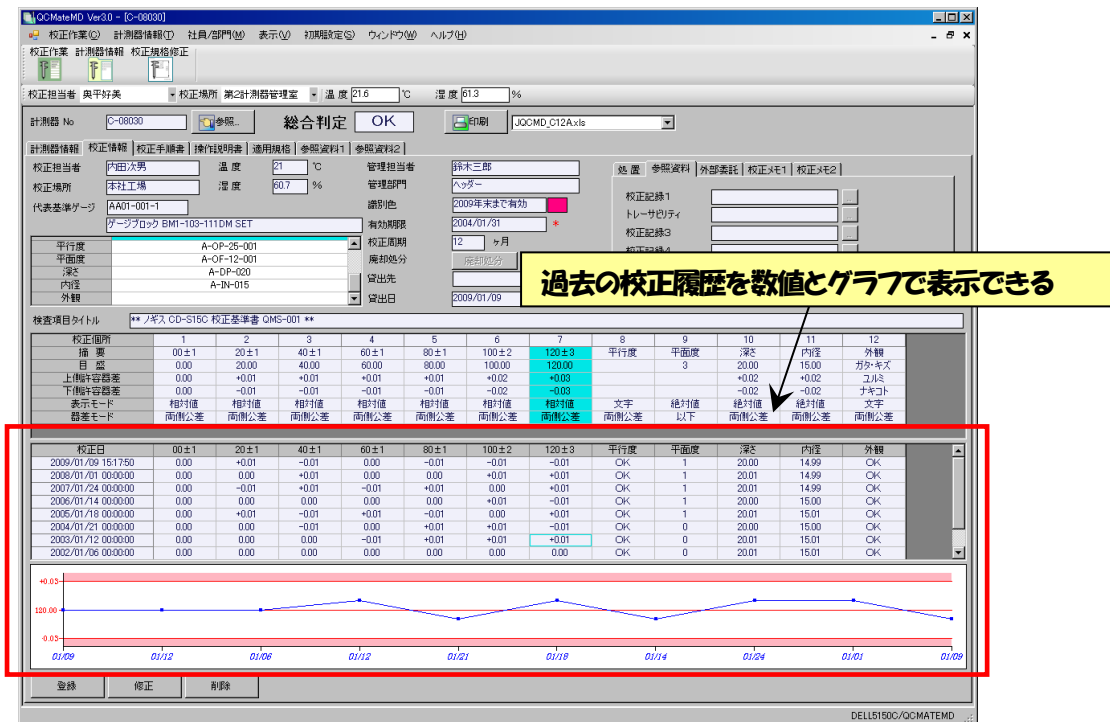


※ PDF形式などに電子化した校正証明書、体系図を自動的に表示できます。

③ **トラブル発生時に使用した測定器の校正履歴をさかのぼってチェックできます**

製品に問題が発生した場合、過去の測定器の校正作業担当者名、校正結果、校正時に使用した基準器、作業時のコメントのみならず、使用した基準器の管理状態も瞬時に画面表示できます。保存できる校正履歴データの期間（校正データの件数）の制限はありません。

◆ 校正履歴情報の画面



■ 合格していることの根拠となる記録を作成し、維持していること

① 計測器管理規定に基づいた校正検査作業ができます

校正作業は、画面に表示されている検査項目に従って行います。校正作業時に検査が必要な項目は、社内の計測器管理規定に従って作成されているため、誰が行っても正しい手順で、計測器管理規定に基づいた校正作業ができます。

◆ 校正履歴情報の画面

使用した基準器を記録できる

校正規格に基づいた校正作業が実現できる

校正箇所	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
偏差	00±1	20±1	40±1	60±1	80±1	100±2	120±3	平行度	平面度	深さ	内径	外径
目盛	0.00	20.00	40.00	60.00	80.00	100.00	120.00	3	20.00	15.00	14.99	14.99
上側許容器差	0.00	+0.01	+0.01	+0.01	+0.01	+0.02	+0.03		+0.02	+0.02	0.02	0.02
下側許容器差	0.00	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.02	-0.03		-0.02	-0.02	0.02	0.02
表示モード	南側公差	南側公差	南側公差	南側公差	南側公差	南側公差	南側公差	文字	絶対値	絶対値	絶対値	文字
器差モード	南側公差	南側公差	南側公差	南側公差	南側公差	南側公差	南側公差	南側公差	以下	南側公差	南側公差	南側公差

判定の合否判定基準となる器差を記録できる

② 校正作業時の検査内容や器差を記録できるので、合否判定の根拠が明確です

校正作業時に記録が必要な、温度・湿度、使用基準器、校正担当者名、器差、校正作業内容、処置などの重要な項目が入力でき、測定器差の合否判定はシステムが自動的に行います。この合否判定は、計測器管理規定に基づいているため、計測器が正しく管理されていることを客観的に証明できます。

また判定の基準となった計測器管理規定、計測器の取り扱い説明書などを電子化すれば、自動的に表示できるので、不明な点は画面で即時に確認できます。

一部のシステムで行われている合否判定だけの記録では、合否の判定根拠が明確でないため、ISO 9001の要求事項に対応しているといえません。

③ 校正結果の器差を入力すると、自動的に合否判定します

計測器と基準ゲージと差である器差を入力すると、登録した校正規格に基づき、音とカラーで合否を自動判定します。従って、入力ミスがなくなり、不合格の計測器を見逃しません。

また目視などについては、限度見本の文書を画面表示できるので、正確な校正作業ができます。

④ 校正の結果をパソコンに記録できるので、長期間保存が簡単です

紙による台帳方式では、大量の計測器の校正履歴情報を長期間保存するには不適です。しかしISO 9001や製造物責任（PL）では、長期間にわたり品質保証に関する情報を保存することを義務づけています。「QCメイトMD」はパソコンを使うため、大量データの長期保存を簡単に実現できます。省人化と高度な品質保証体制を同時に追求しているグローバル化の時代の製造業にとって、パソコンを利用しての解決方法が一番合理的です。

校正作業の初心者でも、社内規定に従った校正作業を行えます

「QCメイトMD」でISO9001の要求事項を満足する計測器の管理・保証体制が確立できても、運用規定が煩雑で面倒では、計測器管理作業の合理化を実現できません。

「QCメイトMD」ではこの問題点を克服するため、製造業で実際に長期間使っていた計測器管理システムを基本とした上で、発売開始以降20年間以上にわたり「QCメイトMD」を採用して頂いた多くのお客様の声をバージョンアップ時に反映してきています。この結果、高機能でありながら、使い勝手のよい現実的なシステムをお客様に提供できるようになりました。

「QCメイトMD」は、品質保証の視点から長期的な運用を前提としたパッケージソフトとして開発しています。従って、導入時の初期投資費用が経済的であるばかりでなく、長期的な品質保証体制の維持と作業の合理化を最小限の費用で継続できます。

① 導入時の初期登録を簡単かつ効率よく行うための様々な工夫があります

製造現場で初めてパソコンを利用する場合、一番の難点は初期登録の面倒さです。「QCメイトMD」は、キー操作を最小限にするための工夫として、既に登録されている測定器の情報を画面に参照表示し、必要項目のみを変更後、登録することができます。これは同形状の機器の繰り返し入力が多いノギス、マクロ、ゲージなどの初期登録のスピードアップに最適です。また、Excelデータからのデータ変換機能もあるため、初期登録時間を短縮できます。

② 計測器管理規定に基づいた正確な計測器管理ができます

ISO9001では使用する測定器がタイプや使用頻度に応じ、社内で規定した間隔で回収後、校正作業が行われることを要求しています。「QCメイトMD」では、校正周期、校正項目、校正作業の判断基準などを計測器毎に登録できます。新規購入した測定器を登録する場合、計測器管理規定で決められた通りに登録すれば、後は安心です。検査項目の検査忘れや、担当者による社内規定を逸脱した独自の判断はなくなります。

③ 強力な検索機能があらゆる問い合わせに対応しています

システムを長期間運用する場合、登録情報をさまざまな条件で問い合わせることが必要です。通常のパッケージソフトでは、「計測器管理番号」からのみの検索に対応していますが、「QCメイトMD」では、全ての項目を複数組み合わせで検索できるので、必要なデータを瞬時に取り出せます。また検索したデータを、ユーザーがExcelでデザインした独自様式で出力できるので、今までマニュアル運用時に使用してきた文書の様式を変更する必要はありません。

④ 測定器のカラー識別に対応しているので、現状の管理方法を維持できます

測定機器の有効期限や管理区分を、カラーで識別している企業は多いと思います。「QCメイトMD」はカラー識別に対応しているので、現状の品質管理手法を変更することなく、計測器管理システムを導入できます。

⑤ 印刷帳票は全てExcelでデザインできるので、現在の印刷様式を継承できます

「QCメイトMD」の印刷帳票は全てExcelでデザインされています。従って誰でも「QCメイトMD」の印刷コマンドをExcelのセルに入力すれば、印刷帳票の新規作成や変更ができます。現在使用している印刷帳票と同じデザインでの帳票作成も可能です。

長期間安心して使えるシステム環境で開発しています

「QCメイトMD」は、Windows10の環境で動作するパッケージソフトとして開発されていますので、長期間安心して使用できます。機能向上やパソコン環境の変化に対応するため、必要に応じてバージョンアップを行っています。開発環境はマイクロソフト社の商品で統一しているため、安心して長期的な運用ができます。最新のWindows環境のパソコンで動作確認しているため、長期的な維持運用コスト（TCO）を最小限にできます。

① パッケージソフトなので、使い勝手が優れ、初期導入コストを最小限にできます

「QCメイトMD」はパッケージソフトとして開発されているので、導入時の初期費用を低減できます。またシステムの仕様打ち合わせやバージョンアップ時に、実際に「QCメイトMD」を既に使用している校正管理担当者殿の、使い勝手に関する貴重なご意見を反映していますので、長期的な使用に十分耐えるシステムとなっています。

② 定期的なバージョンアップを行っているので、システム環境の変化にも心配ありません

ウィンドウズのバージョンアップに伴う利用環境の変化や、実際に「QCメイトMD」を使っている担当のお客様からのご希望を反映するため、「QCメイトMD」のバージョンアップは一定間隔で行っていますので、長期間にわたり安心してご利用いただけます。

発売開始時の「QCメイトMD」Ver.1.0は、Windows95環境で動作しましたが、現在販売中のVer.6.0はWindows10の日本語・英語版で動作確認をしています。

③ 製造業の実務経験に裏打ちされたサポート・サービスが受けられます

クオリメイトは、製造業向けの品質管理ソフトや、試験機の解析ソフトを専門に開発している会社です。品質管理業務向けの専用パッケージソフト開発の豊富な経験が、誰でも簡単に使える解りやすい操作を実現しています。

具体的な計測器管理の運用に関してのご質問にも、豊富な経験をもとにアドバイスを行っていますので、遠慮なくお電話やメールでお問い合わせ下さい。また、各種オプションソフトの開発も行っていますので、ご希望がありましたら、お問い合わせ下さい。

④ 製造業の海外工場を含めた全社的な統合品質管理システムの構築が可能です

クオリメイトは、日本企業の海外工場を含めたグローバルな統合品質管理システムをお客様にご提供することを目指しています。その一環として「QCメイトMD」は、Windows10の日本語版または英語版の両方で動作確認しています。

国内工場間、または海外工場を含めた計測機管理データの共有を実現できるため、緊急時に要求される他工場の計測機器の有無の確認などが、簡単に行えます。

⑤ DBは、MS SQL Server2014/2016のため、大容量データの長期間保存に最適です

「QCメイトMD」のデータベースは、マイクロソフト社の[SQL Server2014/2016]を採用しています。このSQL Serverは、Windows環境で一番採用事例の多いデータベースで、10年以上の長期間にわたり安心してお使い頂けます。また、またこのデータベースは、ExcelやACCESSとの親和性が高いため、お客様にとり、拡張性と自由度が高いデータベース環境です。

無償版のMS SQL Server 2014/2016 Express Editionは、最大容量が10GBですので、管理対象の測定器が数万万台、必要なデータ保有期間が10年間以上でも、全く問題ありません。

参考例：計測器数：3万台 保有期間：10年 データ容量：1~1.5GB

「QCメイトMD」に関して、よくある質問について

● 保存できる計測器や校正データの最大登録件数はどれくらいですか？

「QCメイト」が使用している無償版データベースMS SQL Server 2014/2016 Express Editionは、10GBの容量制限がありますが、データ登録件数の制限はありません。数万台程度の計測器の管理データを、10年間程度保管する場合、無償版のMS SQL Server 2014/2016 Express Editionで十分に対応できます。それ以上の数量の測定機器を長期間管理する場合、製品版のご購入をご検討下さい。

● 蓄積したデータを表計算ソフトExcelに出力できますか？

蓄積したデータをExcel形式に出力するには、Excelで印刷様式のデザインと同じ方法で、データ出力用ファイルを作成して下さい。計測器の検索後、作成した出力用Excelファイルを選択し、「Excel変換」ボタンを押して、データをExcelファイルに出力できます。

● 登録データの問い合わせを自由にできますか？

項目の条件を組み合わせることで自由に検索できます。長期間の使用で膨大なデータが蓄積されますが、様々な検索条件を組み合わせることで自由に必要なデータを表示。出力できます。

- **製造現場から有効期限が近い測定器を100%回収したいのですが、可能ですか？**

製造現場にある有効期限が近づいた計測器は、100%洩れなく回収できます。測定工具の校正作業で一番心配な有効期限が過ぎた測定具の回収洩れはありません。

パソコンを利用しない管理方法では、一般的に測定器にカラー識別をつけて管理していますが、カラー識別票が測定工具から外れてしまったため、回収を忘れてしまうケースがよく見られます。「QCメイトMD」の回収指示書発行機能を使い、確実に校正が必要な機器を有効期限前に特定できるので、回収もれの心配はありません。

- **測定具につけるカラー識別は、「QCメイトMD」では何色使えますか？**

特にカラー識別の登録数の制限はありませんが、実際は、赤、桃、青、水色、紺、黄、黄緑、緑、白、灰、銀、黒、茶などの13色程度が使われているようです。

このうち、黒、白、茶、赤、紫、黄、青の7色は、(株)ミットヨ製マイクロメーター・カラーラチェットストップでも使われています。また、任意の色や識別名称をユーザーが自由に登録することも可能です。

色	識別名称
赤	赤
桃	桃
2008年末まで有効	
水色	水色
紺	紺
黄	黄
黄緑	黄緑
緑	緑
管理対象外	
灰	灰
銀	銀
黒	黒
茶	茶
紫	紫
2009年末まで有効	

- **保有しているすべての測定器の定期的な校正は必要ですか？**

商品の品質に影響の与える測定器は、すべて校正の対象です。

校正対象外の測定器を、計測時に間違えて使用することを防ぐには、測定機器に管理対象外の区分シール等を貼り、誰が見ても解るようにしておく必要があります。

- **「QCメイトMD」の基準器とは何を指しますか？**

マイクロメーターやノギスなどを社内校正する場合、通常はブロックゲージと比較し、器差を求めますが、この基準となるブロックゲージのことを「QCメイト」では「基準器」または「基準ゲージ」と呼んでいます。

一般的に、この基準器となるブロックゲージの管理は、計測器の製造元メーカーが発行する校正証明書とトレーサビリティ体系図で行いますので、これらの書類の記載内容を確認の上、大切に保管して下さい。

社内の基準器の校正を、製造元メーカーでない、認定事業者に校正を依頼する場合も同様に、事業者の特定二次標準器による校正作業時に発行される校正証明書とトレーサビリティ体系図を大切に保管しておいて下さい。

● **JCSSマークの入った校正証明書とはどのようなものですか？**

国家から認定された認定業者が発行した、トレーサビリティのある校正結果の証明書です。

1993年より計量法のトレーサビリティ制度が施行され、認定業者は通産省に届け出た特定二次標準器で、一般企業が使用している標準器を校正し、校正証明書を発行できます。この特定二次標準器は、法律で決められた指定校正機関または日本電気計器検定所で周期的に校正を受けています。認定事業者が校正をすると、JCSS(Japan Calibration Service System)のロゴマークが入った校正証明書が発行されます。このロゴマークの入った校正証明書を受けた被校正ブロックゲージ(基準器)は、国家標準にトレーサブルであると法律により保証されます。従って、校正証明書は社内の測定機器が国家標準にまでトレーサブルであることを証明する書類ですので、大切に保管しておいて下さい。

● **使用している基準器の国家標準がない場合、どう対応しますか？**

ISO9001:1994では、4.11.2管理手順のb)項で、「. . . 標準がない場合、校正に用いた基準を文書化しておくこと」と規定しています。国家標準がない場合、何を最高位の標準器として校正するかを決め、社内の校正基準書に明記しておく必要があります。

● **社内で作成した特殊な、はめあい(嵌合)ゲージを管理できますか？**

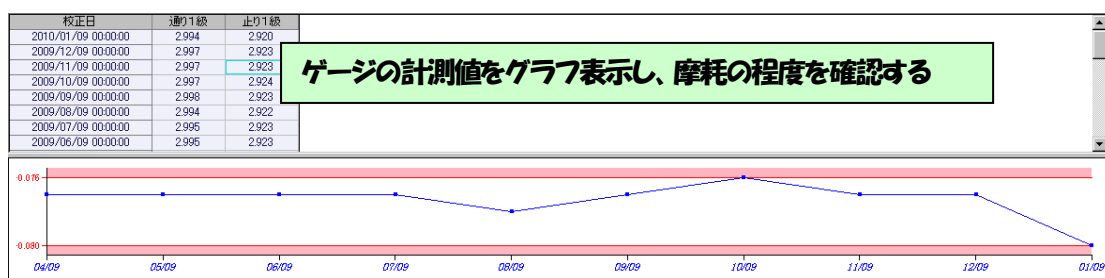
社内で特殊なゲージを製作した時に使用した図面の寸法を「QCメイトMD」の校正規格に登録し、管理して下さい。

● **記録できる校正作業の登録項目数は最大いくつですか？**

1つの計測器に対し、器差などを記録できる校正検査項目の登録最大数は、数字、文字情報を併せて255項目です。従って、計測項目数が多い電気計測にも「QCメイトMD」を使用できます。

● **ゲージの校正値をグラフ表示できますか？**

ピンゲージや栓ゲージなどは、実測値と摩耗限度値を比べて合否判定しますが、「QCメイトMD」はこの実測値を時系列的にグラフ表示できます。摩耗を示すグラフが限界値に近づいたかどうかをイメージで判断できるので、校正作業が正確で早くなります。



● **廃却した測定器の、不要となった「QCメイトMD」の校正データはどうしますか？**

測定具を廃却しても、校正データを直ちに削除してはいけません。

お客様からデータ提出の依頼があった場合や、過去に出荷した製品のトラブルがあった時、トレーサビリティの視点から、製品の製造時に使用した測定機器の検証が必要になる可能性があるからです。製造物責任(PL)との関連もあり、可能ならば廃却後10年間程度はデータの保存をお勧めします。

- **「QCメイトMD」のデータは、どのように保存されていますか？**

校正データはパソコンのハードディスクに、データベース（MS SQL Server 2014/2016）形式で保存されています。従って、パソコンのハードディスクの故障が一番心配ですので、必ずデータベースと運用データのバックアップを毎日定期的に行うようにして下さい。

- **「QCメイトMD」のデータを、ユーザーが自由に加工できますか？**

ExcelやACCESSを使えば、データの取り出しや印刷は可能です。「QCメイトMD」のデータはSQL Server2014/2016に保存されています。マイクロソフト社のデータベースソフトACCESSやExcelを利用すれば、ユーザーでも自由にデータを編集できます。

- **導入後、2年目以降のサポート契約は必要ですか？**

お客様のシステム管理担当の方が、導入後の安定運用に必要なさまざまな作業を行って頂けるのであれば、サポート契約の2年目以降の解除は可能です。

解除後のサポート・サービスは、お見積もりベースでの有償対応になります。

- **校正データの登録、削除、変更などの作業履歴をログデータとして保存できますか？**

校正データの登録、修正、削除などの基本的な作業を誰がいつ行ったのかなどの管理履歴を自動的に記録する管理履歴機能は標準機能として含まれています。ただし、記録したい内容や目的はお客様により異なりますので、具体的なご希望内容をクオリメイトにお問合せ下さい。

- **QRコードを使用した計測器管理業務は対応可能ですか？**

全ての計測器にQRコードを直接印字して、効率よく管理することは可能です。校正作業時に、計測器のQRコードを、パソコンに接続したバーコード・リーダーから読み込むことで、該当の計測器の校正履歴情報を、瞬時にパソコン画面に表示できます。計測器へのバーコード刻印機は、市販のレーザーマーカをお勧めします。ラベル形式のQRコードでも対応は可能ですが、油や汚れの影響が多い場所での使用では、注意が必要です。

- **国内や海外の工場と計測器管理データを共有できますか？**

各工場間にVPN（Virtual Private Network：公衆回線をあたかも専用回線であるかのように利用できるサービス）が構築してあれば、問題なく計測器管理データを共有できます。

- **海外工場でも同じシステムを導入したいのですが、導入は可能ですか？**

「QCメイトMD」は日本語・英語のバイリンガル版が標準です。また動作確認は、日本語と英語のWindows7で行っていますので、この動作環境で運用可能な国でしたら、導入は可能です。

- **自社独自の印刷帳票を作成したいのですが、対応してくれますか？**

「QCメイトMD」はExcelで自由に帳票が作成できます。ただし、Excelで作成できない特殊な帳票の場合、別途お見積もりの上対応致します。

- **校正証明書やトレーサビリティ体系図の管理方法を教えてください**

校正を外部委託した時に発効される校正証明書やトレーサビリティ体系図のオリジナルは、バインダーなどに綴じて大切に保管してください。これらの文書をPDF形式などの電子書類としてパソコンに保存すれば、「QCメイトMD」で該当の計測器を読み込んだ時、この校正証明書とトレーサビリティ体系図を画面に自動表示できます。

■ 「QCメイトMD」 Ver.6.0 の動作環境

● 動作確認したOS

Windows10 Professional (64bit) ※ 32bitには対応していません。

● パソコン

上記のWindowsが快適に動作する高解像度のパソコン。

ディスプレイの解像度： 1280 X 1024ドット以上

● プリンター

Windows10に対応したプリンター

● データバックアップ装置

外付けハードディスク、またはネットワーク接続されたパソコンやサーバーのハードディスク

● ネットワーク

Windowsのネットワーク環境に対応

● 表計算ソフト「エクセル」

Excel必須：印刷時に表計算ソフトExcelを使用しているため

対応バージョン：Excel2010～2016

● データベース

MS SQL Server2012/2014 Express Edition (主にパソコンで使用)

MS SQL Server 2014/2016 (主にWindows Serverで使用)

■ 「QCメイトMD」の技術的な質問について

「QCメイトMD」に関するご質問は、弊社代理店または直接下記へ遠慮なくお問い合わせ下さい。



電話：0532-46-9390

FAX：0532-46-9394

info@q-mate.com



〒441-8113

愛知県豊橋市西幸町浜池 3 3 3 - 9

豊橋サイエンスコア 3 0 6

電 話 : 0 5 3 2 - 4 6 - 9 3 9 0

F A X : 0 5 3 2 - 4 6 - 9 3 9 4

URL: <http://www.q-mate.com>

Email: info@q-mate.com

※Excel、ACCESS、SQL Serverは、マイクロソフト社の商品です。

※WindowsXP/Vista/7は、マイクロソフト社の登録商標です。

※デジマチックは、(株) ミットヨの登録商標です。